

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

2022年1月23日（日）

主 題：「恵みの上に築かれて」

—主イエスに似せられ—

テキスト：2ペテロの手紙1章5-9節

はじめに

- 本日の説教は約半年前（2021.6.27）に語ったものです。
その理由は、来週から第2ペテロの講解メッセージに入る前に、これまでの説教の中で、もっとも大切と思われるものを復習をかねてお語りしたいからです。
- 約半年前ですが、梅雨時期の最中に私の住んでいるマンションの塗装工事が行われました。マンションは築20年以上の年月が経過し、外壁がカビと汚れで黒ずんでいました。それに大切な消火栓の開閉扉も、サビがついていました。イザという時に、消火栓の扉が開かなくなってしまうのは一大事です。そこで、梅雨の時期ではありますが、時満ちて建物全体の塗装工事を行うことになりました。
- なにしろ梅雨の最中の塗装工事ですから、雨が降る合間をぬって塗装が行われ、結局約4週間近くもの時間がかかりました。今では、見違えるほど美しくペンキが塗られました。そこで以前と以後（ビフォー・アンド・アフター）の違いに、ハッキリと気づきました。多くの労力が注がれ、塗装後は本当に美しくなりました。
- 私たちの信仰生活は、さすがサビつくことはないでしょうが、信仰の成長（アフター）ということを考えると、以前の自分の歩み（ビフォー）を振り返ることで確認されるのではないのでしょうか。神を信じる前の自分の人生（ビフォー）と、神を信じてからの人生（アフター）は、それほどの違い（成長）があるのでしょうか。
- ペテロは今日のテキストで、離散したユダヤ人クリスチャンの成長について述べています。成長というテーマで、私たちも「ビフォー・アンド・アフター」について考えたいと思います。御霊の助けにより、私たちは日ごとにどれほど成長させていただいているのでしょうか。
- 今日も、私たちは主のみ声を聞いていきたいと思います。 2点

大切なポイント

1. 恵みの上に立つキリスト者

1:5 だからこそ、あなたがたはあらゆる熱意を傾けて、信仰には徳を、徳には知識を、

1:6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、

1:7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。

1) 恵みの信仰生活

- ・「だからこそ」と始まりますが、それはその前の1～4節を受けています。そこで4節をお読みしましょう。

1:4 その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。

- ・キリスト者は神の恵みを受けて、神のご性質にあずかる者となるという幸いです。ですから「あらゆる熱意を傾けて」、神の恵みの上に自分の信仰の家を建て上げるということです。家を建てることで最も重要なことは、土台です。ペテロは「信仰」という土台の上に、何を、どのように重ね積み上げていくかを述べました。
- ・なにはともあれ、私たちは神の恵みにより信仰に導き入れられた事実を覚えなければなりません。

ヘブル人への手紙 1 1 章

11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。

信仰は土台であり、家を建てる際の基礎となります。この土台がまず据えられることは大切です。すべては土台から始まるからです。

- ・ここで、少し考えてください。この書簡は苦しみの中にあった聖徒に対して書かれたものではなかったでしょうか。しかし、ここで書かれている内容は一般的な励まし（頑張れ！）とは違います。なぜ、ペテロはこのように書いたのでしょうか？ →それはここに、苦しみの中で生きる秘訣があるからです。

2) 熱意を傾けて

- ・5節で、ペテロは「あなたがたはあらゆる熱意を傾けて」と述べました。熱意という言葉は「努力」とも訳せる言葉です。するとある方はここで、プレッシャーを覚えるかも知れませんね。なぜなら、私たちはストレスフルの社会で生きているからです。
- ・ですから、「熱意」とか「努力」とか、「精進」とか「頑張り」という言葉に敏感に反応してしまうことがあります。生き残りをかけた競争社会の中で、「も

っと努力を」、「もっと営業成績を」と発破をかけられ疲れ果て、やっとの思いで教会の礼拝にたどり着いた方々には、非常に厳しく聞こえるかも知れません。

- ・確かに「努力」には、ストレスを与え、圧迫し、疲れさせ、かえって身を滅させる「努力」もあります。しかし私たちを自由にし、力づけ、私たちを生かす「努力」もあります。私たちはその違いを正しく見極める必要があります。

では、私たちを生かす「努力」とは、どんなものでしょうか。

→ それは主イエスにある「努力」のことです。

- ・神は、私たちが誠実であること、最善を尽くすこと、そして神を愛する生き方を確かに求めておられます。私たちの頑張りや精進ではありません。私たちに「いのちと敬虔」(1:3)に関するすべての恵みをお注ぎくださる主イエスと、ともに担い築いていく人生です。
- ・私たちが忘れてはいけないことは、どこまで行っても「恵みの上に立つキリスト者」であるということです。ですから、とにもかくにも、感謝の心を忘れてはいけません。それでは、恵みの上に立つキリスト者は、どんな実を結ぶのでしょうか。

2. 実を結ぶキリスト者

1:5 だからこそ、あなたがたはあらゆる熱意を傾けて、信仰には徳を、徳には知識を、

1:6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、

1:7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。

- ・ここに、七つの徳目が挙げられていますので注目してみましょう。

1) 七つの恵みの性格

① 「信仰には徳を」

- ・徳とは「道徳的な立派さ」のことです。それは主イエスのうちに現された徳、すなわち神のご性質を表します。キリスト者が主イエスとともに生きる歩みの中で、信仰に徳が加われば、主イエスに似せられ、主のきよさ、謙遜、優しさ、柔和を身に着ける人となります。

② 「徳には知識を」

- ・神のご性質を身に帯びていくためには、「知識」を増す努力も必要です。しかし知識ばかりを追求し、信仰生活が形骸化してしまっていてはいけません。過去のキリスト教史をとおして、私たちは反面教師を多く見ることができます。

- ・信仰生活の実践には、知識による方向づけが必要です。物事を正しく判断し、正しく判断していくために、みことばによって養われた視力が必要となってきます。また知識とともに知恵が、私たちの身を守ってくれます。ですから、知識が加えられることが大切です。

③ 「知識には自制を」

- ・自制とは、自分自身を正しく管理することです。ペテロの時代、キリスト者は異教社会の中にあった不道德と直面させられていました。彼らは正しく生きようと願ってはいても、周りに誘惑する環境がありました。それは今の時代もそうではないでしょうか。
- ・私たちの心は燃えていても、たやすく神のみこころを見失ってしまいます。そして、自分の欲の方へ引きずられてしまう弱さがあります。ですから、大切なことはその弱さに、どれほど気づいているかです。
- ・神は弱い私たちのために、贖いのみわざを成し遂げてくださいました。弱さによって永遠の滅びに向かうことがないように、逃れの道、救いの道を備えてくださいました。それは次のみことばが示してくれています。

1:4 それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。

- ・私たちは、キリストの十字架によって律法は廃棄されたことを知っています。そして自由となりました。しかし、その自由をどのように用いるか、自由を何のために用いるか、自分を喜ばせるためであるか、あるいは神を喜ばせるためであるかです。自分を律するということは大切です。与えられた自由を、どのようにコントロールし、信仰者として生きるかが問われます。自制は大切です。
- ・自制には、管理も伴います。たとえば時間の管理ですが、多忙な方には、正しく管理する知恵が必要です。忙しい生活の中で、つい時間が足りないように感じます。しかし時間は造り出すもの、生み出すものとも言われます。
- ・多忙であるからこそ、時間を上手くコントロールし、時間と時間の間に神の義を行うためのスペース、神の愛を現すためのスペースを確保したいものです。そういった意味で、自制が求められます。
- ・同じように、私たちは神から与えられた健康も自制が必要です、体力に応じた仕事量、活動、すべて神から託された管理にあたります。健康管理という大切な面です。このように日常生活では当然、自制は求められてくるでしょう。

④ 「自制には忍耐を」

- ・忍耐については、ペテロ第一の手紙で繰り返し語られてきました。ここでいう忍耐は我慢強さということより、神への確かな信頼という内容を備えたものです。忍耐とは神の力を信じ、神の導きに期待するゆえに、私たちに与えられる力です。なんの根拠もなく、ただじっと我慢する忍耐ではありません。

⑤ 「忍耐には敬虔を」

- ・敬虔とは、神を恐れて生きることです。それは神を愛することでもあります。イエスは次のように言われました。

マタイ福音書 22 章

22:37 イエスは彼に言われた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

22:38 これが、重要な第一の戒めです。

- ・神のご主権を尊び、真のへりくだりをもって神を愛する歩みをさせていただくことです。それが敬虔です。

⑥ 「敬虔には兄弟愛を」

- ・兄弟愛とは、当然のことながら、単に兄弟間だけをさすものではありません。姉妹を含めた兄弟姉妹を指しています。前の敬虔が神への愛を現すのであれば、兄弟愛は人に向けられた愛であります。これも恵みの上に立つキリスト者に加えられるものです。

⑦ 「兄弟愛には愛を」

- ・最後に、これらすべてを総括するものとして「愛」(agape) が上げられています。信仰で始まり、愛で完結します。これらが七つの徳目、七つの恵みの性格です。
- ・キリスト者にこれらの「恵みの性格」が増し加わっていくならば、信仰生活は躍動してきます。そして実を結ばせてくれます。すばらしい経験を重ねていく歩みです。神の恵みは、ますます私たちの内に熱心を起こさせてくれます。
- ・ペテロは「あらゆる熱意を傾けて」(1:5) , 生きることを勧めました。具体的には、信仰の上に徳から始まる六つの徳目が加えられて、信仰が全うしていくのです。それがキリスト者に与えられ恵みです。

◎ここで、「恵みの性格」を少し整理してみましょう。

- ・神は私たちに素晴らしい「七つの恵みの性格」を備えてくださいました。迫害と苦難、試練の中にあつた離散したユダヤ人クリスチャンに対して、苦しみはあるけれども、イエスをキリスト(救い主)と信じる聖徒には「恵みの性格」が備えられていると述べました。それは世の腐敗から免れて、神のご

性質にあずかるものとなることです。100%、神からの贈物です。

- ① 「恵みの性格」は、一つ前の「恵みの性格」の土壌の中で成長していくものです。つまりキリスト者の人格は、神の恵みによって成長するものです。
- ② 「恵みの性格」は、違いが他を含み、融合して、環のようなつながり、恵みの品性を形成するものです。初めの信仰に富む人は、最後の愛にも富む人となるのです。

2) 実を結ぶ者に

1:8 これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、私たちの主イエス・キリストを知る点で、あなたがたが役に立たない者とか実を結ばない者になることはありません。

① 健康な霊的視力

- ・皆さん。「信仰には徳を、徳には知識、知識には忍耐、忍耐には敬虔、敬虔には兄弟愛、兄弟愛には愛」が、私たちの内に備わり、それらがますます豊かにされていくなれば、主イエスを知る者として、役に立たない者や、実を結ばない者になることはありません。さらにこう述べています。

1:9 これらを備えていない人は盲目です。自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまって、近視眼的になっているのです。

近視眼の人は近くの物はよく見えますが、少し離れると何も見えません。目の物は見えますが、遠くや周りを正しく見渡すことができません。自分の人生の方向性、人生の目的、神の御心、神のご意思を正しく見渡せないということも霊的近視眼の特徴です。

- ・ペテロは次のように述べました。

1:9 自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまって、近視眼的になっているのです。

- ・愛する皆さん。私たちは大切なことを忘れてはいないでしょうか。私の罪がイエス・キリストの尊い御血によって贖われたことを。そこで支払われた十字架の大きな犠牲を忘れてはいないでしょうか。ペテロは言いました。

1:4 それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。

- ・私たちは、霊的近視眼にはなっていないでしょうか。

私たちはみことばを通して、神がお語りくださっていることを思い出し、主に応答する者でありたいと願います。

② 主イエスを知ること

- ・も少し考えるならば、「七つの恵みの性格」は、そもそも私たちの内にはなか

ったものです。しかし、イエス・キリストの贖いのみわざを通して、私たちは新しい者とされました。そして「恵みの性格」である神のご性質にあずかる者となりました。それは、ただ神からの一方的な恵みであります。

- ・キリスト者の人生は、「恵みの上に築かれる」ていくものです。

ペテロは1章8節でこう述べてました。

1:8 これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、私たちの主イエス・キリストを知る点で、あなたがたが役に立たない者とか実を結ばない者になることはありません。

- ・ペテロは、「恵みの性格」にあずかるとは、
先ずイエス・キリストを知ることであり、そして無益な人はいないということです。なんという幸いではありませんか。
- ・では、主イエスを知るとはどういうことでしょうか？
イエスを人格的に知っているのでしょうか。私たちが主イエスを人格的に知ることとは、実は神のご性質にあずかる者となるのです。それはただ神の恵みあります。
- ・慌ただしく動く社会の中で生きる私たちには、心を静める時は必要です。神のみことばの前に身を置き、黙想する時間が必要です。なぜなら、静思の中でイエス・キリストはお語りくださるからです。それがイエス・キリストを知ることです。

ま と め

主 題：「恵みの上に築かれて」

—主イエスに似せられ—

- ・今日も、主イエスはお語りくださいました。それは、キリスト者とは神の「恵みの上に築かれる人生」を送るものであることです。次の点を確認しましょう。

1. 「恵みの性格」は、一つ前の「恵みの性格」の土壌で成長する
2. 「恵みの性格」は、違いが他を含み、融合して環のようにつながり、恵みの品性を形成する。

- ・ペテロは次のように述べてました。

1:8 これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、私たちの主イエス・キリストを知る点で、あなたがたが役に立たない者とか実を結ばない者になることはありません。

* God bless you!